

# PLAYBACK 2014

韓国・仁川で行われるアジア大会の代表選考会を兼ねた今大会。気温9.6度、東の風1.9メートルの好条件の中、国内外招待選手13人を含めて466人が栄光目指してスタートを切った。



START



ヤジンスカが遅れ始め、優勝は赤羽とガメラシュミルコの2人に絞られた。37キロ過ぎまで、両者一歩も譲らぬマッチレースが続いた。



後半も5キロ17分前半を刻み続けるなど疲れを見せなかったガメラシュミルコが、あびこ筋に入る辺りから独走態勢に入る。

FINISH



今大会で引退を表明していた赤羽。、終始笑顔を決やらず有終の美を飾った。



ペースメーカー不在の中、攻めの走りを見せた重友、ヤジンスカ、赤羽の3人が先頭集団を形成する。



第2集団につけていたガメラシュミルコが追ってきた。中間地点では先頭と41秒差があったがあっという間に追いつき、3人並走。



重友はペースを落とし、残り10キロまでは赤羽とヤジンスカの激しい首位争いが展開された。

## 第33回大会 2014.1.26

出場者:466人/国内458人、外国8人(8ヵ国)  
完走者410人

気温:9.6℃(スタート時)湿度:61%(スタート時)

順位	名前	年齢	国名(所属)	タイム
1	赤羽有紀子	34	ホクレン	2:26:00
2	K・ヤジンスカ	32	ポーランド	2:26:31
3	前田彩里	22	佛教大	2:26:46
4	M・レマ	23	エチオピア	2:28:06
5	N・プチコワ	26	ロシア	2:28:44
6	小崎まり	38	ノーリツ	2:31:17
7	D・トニオロ	36	イタリア	2:31:42
8	L・デーメン	31	英国	2:32:21
9	野村沙世	24	第一生命	2:32:29
10	松浦七実	24	天満屋	2:33:24



ニューヒロインの誕生だ。佛教大の前田は初マラソンながら、後半に順位を上げて入賞。同じレースに出場した母・淳子さんと健闘を称えあった。



※1位でゴールしたガメラシュミルコはドーピングで失格。